

防災気象情報と警戒レベルについて

「避難勧告等に関するガイドライン」(内閣府)が平成31年3月に改定され、住民は「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自らの判断で避難行動をとるとの方針が示されました。この方針に沿って自治体や気象庁などから発表される防災情報を用いて住民がとるべき行動を直感的に理解しやすくなるよう、5段階の警戒レベルを明記して防災情報が提供されることとなりました。

自治体から避難勧告(警戒レベル4)や避難準備・高齢者等避難開始(警戒レベル3)などが発令された際には速やかに避難行動をとってください。なお、多くの場合、防災気象情報は自治体が発令する避難勧告などよりも先に発表されます。このため、避難が必要とされる警戒レベル4や高齢者などの避難が必要とされる警戒レベル3に相当する防災気象情報が発表された際には、避難勧告などが発令されていなくても危険度分布や河川の水位情報などを用いて、自らの命は自ら守るための判断することが重要です。

気象庁ホームページでは、災害から身を守るために「とるべき行動」と「相当する警戒レベル」について、より詳しく知っていただけるような資料を用意しています。

「防災気象情報と警戒レベル」で検索していただくと、防災気象情報を有効に活用するための留意点などを含めて解説しています。ぜひご覧ください。

問い合わせ 室蘭地方気象台 ☎0143-22-4249

気象台ノート



町では、災害情報や町からのお知らせが放送される「防災行政無線」を無償貸与しています。

「もしものとき」は明日かもしれない

問い合わせ 総務課 研修防災グループ ☎27-2322

防災のページ

台風や大雨に災害に注意してください



初夏から秋にかけては、台風や前線の影響で大雨、洪水、暴風、高潮および大雨による土砂災害などの自然災害が発生しやすい季節です。気象庁のさまざまな「防災気象情報」を確認、活用し、避難など早めの防災行動をとるようにしましょう。



自分で行う災害への備え

- 家の外の備え ※大雨が降る前、風が強くなる前に
 - ・窓や雨戸はしっかりとカギをかけ、必要に応じて補強する。
 - ・側溝や排水口は掃除して水はけを良くしておく。
 - ・風で飛ばされそうな物は飛ばないように固定したり、家の中へ格納する。

●家の中の備え

- ・懐中電灯、ラジオ、救急薬品(持病がある方は常備薬)、衣類、食料、携帯ボンベ式コンロ、貴重品などを備える。
- ・室内の安全対策で飛散防止フィルムを窓ガラスに貼ったり、万が一に備えカーテンやブラインドを下ろしておく。
- ・断水に備えて、飲料水を確保するほか、浴槽に水を張るなどして生活用水を確保する。

●避難場所の確認

- ・ハザードマップで避難場所を確認しておく。

●非常持出品の用意

- ・飲料水、非常用食料、救急医薬品、常備薬、マスク、おむつ、生理用品、下着、タオル、雨具、軍手、靴、ナイフ、缶切、懐中電灯、ラジオ、電池、ライター、ティッシュ、予備の眼鏡、現金(小銭)、預金通帳、印鑑、健康保険証、身分証明証などを用意する。

台風や大雨が引き起こすさまざまな被害を防ぐため、国や北海道では、土砂災害防止のための砂防整備、がけ崩れ防止のための防護壁整備、川の氾濫を防止するための治水工事などさまざまなハード面の防災対策を行っていますが、自然の力が勝れば災害は発生します。

雨が降り出したら、大雨や洪水の「警報」、さらに「土砂災害警戒情報」にも注意しましょう。この「土砂災害警戒情報」は、「警報」の発表後、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに北海道と気象庁が共同で発表しており、命を奪うような土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況であることを伝える情報です。

「土砂災害警戒情報」は、テレビ・ラジオ、町の防災無線やメール等で伝達されるほか気象庁ホームページ、北海道防災情報でも確認できます。

地区防災力の強化を!

北海道地域防災マスターを募集します

町では、自治会などのコミュニティにおける地区防災力の強化・充実のため、「北海道地域防災マスター」の取得を推奨しています。防災に対する心構えなどを多くの方に知っていただくため、ボランティアで地域の防災活動に取り組んでいただいたり、災害時には地域の防災リーダーとして活躍していただける「北海道地域防災マスター」を募集します。

対象：自治会などの自主防災組織の中心となる方、防災活動に興味・関心のある方など
 研修内容：指導者向け防災講座、災害図上訓練(DIG)、応急救護など
 日時：10月26日(土)10時30分~16時30分
 会場：苫小牧消防防災訓練センター

会場までは町が送迎します。

申し込み・問い合わせ
 総務課 研修防災グループ ☎27-2322

厚真町防災アドバイザーの紹介

今年4月から東北大学災害科学国際研究所助教の定池 祐季さんに厚真町防災アドバイザーを委嘱しました。北海道胆振東部地震からの復興、被災者支援などに関して豊富な経験と知識から、助言・支援をいただいています。

ごあいさつ

平成26年5月から平成29年3月まで防災アドバイザーとして活動させていただいた定池です。北海道胆振東部地震の発生翌々日から町の災害対応などお手伝いをしていっている中で、再び同役を拝命しました。皆さまの生活再建や復興に向けて一緒に歩いていきたいと考えています。改めて、どうぞよろしくお願いたします。



北海道大学広域複合災害研究センターと厚真町の共催事業

「平成30年北海道胆振東部地震を振り返り、今後の減災・復興を考える」シンポジウム & 現地見学会

平成30年北海道胆振東部地震から1年。地震発生と山腹崩壊やそれに伴う土砂流出および家屋被害のメカニズムや地震防災などの教育研究の実施状況や成果の一部などを、北海道大学広域複合災害研究センターの研究者から紹介します。

あわせて被災箇所、地震や山腹崩壊と天然ダムなどの特徴や今後の減災の課題などについても解説をいただき、今後の復旧・減災について考えます。

日時 10月27日(日)

10時~12時 【第1部】シンポジウム
 会場：総合福祉センター 1階 大集会室

13時~16時 【第2部】現地見学会
 集合・出発・解散：総合福祉センター前

どなたでも参加できます

対象

- ・小中学生が参加する場合は保護者が同伴してください
- ・現地見学会は町内に住所がある方を優先します

申し込み

10月10日(木)までに下記のいずれかの方法で申し込みください。

- ・電話
- ・申込書を提出(まちづくり推進課に設置)
- ・町ホームページ

<現地見学会について>

- ・現地へは貸切バスで移動します。自家用車での移動はできません。
- ・参加募集人数は、現地での安全管理から先着30人程度とします。
- ・未就学児(小学生未満)の参加はご遠慮ください。
- ・汚れてもよい動きやすい服装でご参加ください。
- ・ヘルメットを貸し出します。
- ・天候などの理由により行程が変更や中止になる場合があります。

申し込み・問い合わせ まちづくり推進課 電話 27-3179